

バンクーバー便り 28～『電動〇〇』

バンクーバー時間：2024年9月24日(火曜日)午前11時25分

日本時間：2024年9月25日(水曜日)午前3時25分

皆さんこんにちは。バンクーバー便り28をお届けします。

今回は娘の通う小学校でもよく見られる電動〇〇について、その歴史と共にご紹介します。

最初は電動スクーターです。日本でも利用者が増え、歩行者をひき逃げをしたという事件を耳にしたことがあります。電動スクーターが現れる前では、足漕ぎスクーターが子どもたちの間で人気の乗り物の一つで、今も子どもたちが夢中になって走らせています。私の子ども時代—今から半世紀以上も前—にも前輪が1輪、後輪が1輪か2輪のスクーターがありました。その当時、この乗り物を何と呼んでいたか記憶にありませんが、スクーターは決して新しい乗り物ではなく、1911年の写真からも子どもたちの熱い眼差しを集めていたことが分かります。娘の小学校では電動スクーターに乗っている子どももいます。大人の電動スクーターとは違って小さな子供用スクーターに後から電動装置を付けたもので、スピードもあまり出ません。それでも子供たちの集まる校庭をスイスイと走るの少し心配になります。送迎に来る保護者の中には、精悍な姿の電動スクーターで子どもを乗せてくる人もいます。電動スクーターも高額になると装備も色々についており、もはやモーターバイクと変わらないものもみられます。この電動スクーターも最近開発されたものではなく、現在の電動スクーターと変わらないものが20世紀初めの写真に残されています。

電動スクーターよりも早くからあったのが電動自転車(バイク)でした。娘の小学校でも電動バイクに乗ってくる子どももいて、殊に男の子に多いようです。子ども達の乗っている電動バイクは小型でスマートなので、一寸目には電動バイクとは気づかないことがあります。電動バイクは19世紀末～20世紀初めに発明され、米国の発明家オグデン・ボルトンがElectrical Bicycleの名で特許を1885年に出願した記録があるそうです。1911年10月号のPopular Mechanics Magazineに「エレクトラ」という電動バイクのスペックが詳しく紹介されています。電動バイクの本格的な開発は1990年以降にバッテリーやモーターの機能向上と地球温暖化の問題などから始まったとのこと。

最後に、保護者や教師の方が電動カーに乗ってきています。殊に米国製のテスラが人気で、小学校前の道路脇に送迎の保護者が駐車をしているのが目に留まります。電動カーも歴史は20世紀初頭に始まります。こうして見てきますと、環境問題の認識と科学技術の進歩が実用的な電動〇〇の開発を促しましたが、その発想は既に20世紀初頭にありました。

古くて新しい電動〇〇は今後ともに益々増えてくるでしょう。娘の小学校でみているだけでも電動〇〇の年々の進歩が楽しめます。次に現れる電動〇〇はドローン技術を使って空を駆け巡る電動ヘリでしょうか。

Then

and

Now



'Electra' in Oct 1911

